

児のそら寝

宇治拾遺物語

①今は昔、比叡の山に
延暦寺 子ども
ありけり。

僧たち、宵の
が 夕暮れ間際
つれづれに、「いざ、かいもちひせむ。」
暇な 時

と言ひけるを、
言つ た の

②この児、心よせに聞きけり。さりどて、し出ださむを
子ども は 期待して 聞いた そうかといつて 作りあげる ような の
接続詞

待ちて寝ざらむも、③わろかりなむと思ひて、
待つ ないでいるの よくない に違いない だろう と思つ

隅 寄つ ぼたもちが 出上がるの 待つ た ところ
片方に寄りて、寝たるよしにて、出で来るを待ちけるに、
隅 寄つ ぼたもちが 出上がるの 待つ た ところ

④すでにし出だしたるさまにて、ひしめき合ひたり。
早くも ぼたもちを 作りあげ た 様子 で 僧たちは 騒ぎ合つ ている

この児、さだめておどろかさむずらむと、待ちゐるに、
は きつと 僧たちが自分を 起こ そうとする だろう 待ち続け ている と

⑤僧の、「もの申しさぶらはむ。おどろかせたまへ。」と言ふを、
が もしもし 起き なさいませ 言う の

うれしとは思へども、⑥ただ一度にいらへむも、
児は うれしい 思う けれども 一回 で 返事をし た ら

待ちけるかともぞ思ふとて、
出上がるのを 待つてい た のか 僧たちが 思う と いけない 児は思つ

⑦いまもう一声一度呼ばれていらへむと、念じて寝たる我慢しほどもに、
から返事をしよう

「や、これなお起こしたてまつりそ。⑧をさなき人は、寝入りたまひ申し上げる
な幼いお休みになつ

にけり。たよと言ふ声のしければ、あな、わびしと思ひて、
見はああ情けない思つ

いま一度起こせかしと、⑨思ひ寝にもう起こしてくれよ
思いながら横になつて聞いていると聞けば、

むしやむしやとひたすらに食べに食べるがたのでしかたがなく
ひしひしと、ただ食ひに食ふ音のしければ、ずちなくて、

副詞
ずつと後になつて

無期ののちに、「えい。」といらへたりければ、
はい返事をしたので

は際限なく

笑つた

僧たち笑ふこと限りなし。